

御嶽塚古墳群(府中市)

次は西府駅近くの御嶽塚です(数年前に通勤でこの駅を利用していたのですが、こんなに近くに古墳があったとは驚きです)









御嶽大権現の石祠







み たけ づか
御 嶽 塚
し し せ き
市 史 跡

ふるさと府中の歴史・文化遺産を訪ねて—No.4





御嶽塚とは

御嶽塚は、市内でも数少ない盛土が現存する貴重な塚として平成16年3月に府中市の史跡に指定されたものです。塚上に祀られる御嶽大権現の石祠には「小野宮願主内藤伊助 安政五年十一月吉日」の銘があります。小野宮とは、当時本宿村に属した小野神社周辺地域を指す名称です。

もともと、御嶽塚は、周囲に溝を回らせた直径約25mの円墳だったと考えられています。西府駅周辺の発掘調査では御嶽塚を含めて約20基の古墳が発見され、多数の円筒埴輪が並べられた古墳もありました。西府文化センターの西側には、圭頭大刀、鉄鍬、金銅製の耳飾りなどの多くの副葬品を伴う河原石積み（河原石積み）の横穴式石室（横穴式石室）の古墳が並んでいたことが明らかになっています。

これらの古墳は、御嶽塚古墳群と呼ばれ、古墳時代後期の6世紀～7世紀はじめ頃に築かれた古墳群です。この古墳群の分布範囲は、府中崖線沿いに東側は新鎌倉街道付近まで、西側は国立市境付近までおよぶと推定されています。

中世になると、御嶽塚を中心とした一帯では、東西南北約200mを塚で方形に囲んだ居館が造られます。居館を区画する塚は、幅が3m近い大規模なものでした。

この近くには御嶽塚以外にも保存整備された古墳があります。御嶽塚の東方約900mには高倉塚古墳があり、北方500mには、国史跡武蔵府中熊野神社古墳が所在しています。この古墳は、上円下方墳（上円下方墳）という特殊な墳形で、築造当時の姿に復元されています。



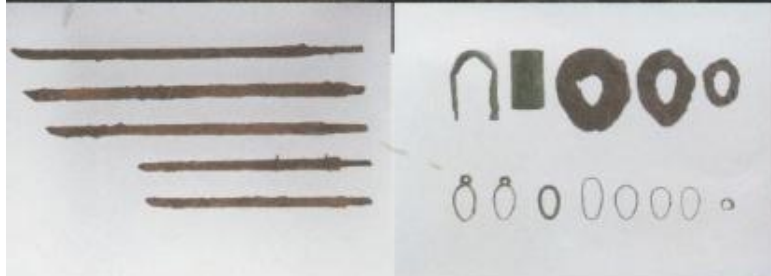
整備前の御嶽塚(平成16年撮影)



御嶽塚10号墳の石室



御嶽塚16号墳の周溝と埴輪出土状態



御嶽塚10号墳出土 大刀と金具類



御嶽塚16号墳出土 円筒埴輪

